

# YWVOB 会 会報 No.59

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

<http://ywvob.com/>

2015 年 4 月 12 日発行

## ～ 59号の目次 ～

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| • YWV OB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・ 1                | • 2014 年シニア OB 月例会報告・・・・ 9 |
| • 2015 年第 1 回役員会報告・・・・・・・・ 2              | • OB 会ホームページ探索             |
| • 第 42 回 OB 山行<br>（北高尾山稜・景信山）報告・・・・・・・・ 3 | 「カメルーンからの便り」・・・・・・ 12      |
| • 第 43 回 OB 山行（小野子山）案内・・・・ 4              | • 自由投稿                     |
| • 苗名小屋便り・・・・・・・・・・・・・・ 5                  | 「故、鴨志田岳志君の追悼企画の報告」14       |
| • YWV 歴史資料館の使用方法・・・・・・・・ 7                | • 現役部員の活動紹介・・・・・・・・・・ 18   |
|   | • 編集委員会から・・・・・・・・・・・・ 19   |

## ■ YWVOB 会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男（9 期）

時の経つのは実に早い。OB 会報第 58 号に挨拶文を書いてから 4 ヶ月が過ぎた。この間、世界中で種々の事件が起きている。振り返ると過激派組織「イスラム国」を一番にあげることができよう。集団の戦いの歴史を遡れば、紀元前 5 世紀の古代中国や紀元前 4 世紀の古代ギリシャで投石機に辿り着く。現代兵器は種々のミサイルが主流なるも究極の水爆や原爆が密かに待機していて、局地戦争から第三次世界大戦が勃発したら地球そのものが危ない。

科学技術の発展は、衣食住はもとより医療・情報通信などの世界に絶大な恩恵をもたらしてきた。一方、無人爆撃機や宇宙探査など兵器の進化にも手を貸している。「イスラム国」は宗教戦争のひとつという見方もあるが、人間が築いてきた文明・文化のひとつ、世界遺産を毀す卑劣な行為には言葉を失う。地球が育んできてくれた美しい自然とか文明・文化だけには手を付けなくて欲しい。



OB 会員の皆さん、こんにちは。OB 会のマスコットガールです。白木(21)さんに作っていただいて、横浜国大ホームカミングデーでの YWV 企画展で 2 年前にデビューしました。OB 会にしては若過ぎる、かわい過ぎる、との声もありますが、皆さんの子供や孫だと思ってかわいがって下さいネ。OB 会の色々な活動でお会いすると思いますので、未永く宜しくお願いします。

私の名前はまだありません。どなたか名前を付けてくださ～い！！

# ■ 2015年 第1回役員会報告

幹事長 西田雅典（20期）

2015年1月17日（土） 13:30から「てくのかわさき」にて第1回役員会が開催された。

【出席】 嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、榎本(12)、山川(12)、小浜(17)、白須(17)、山下(17)、山口(18)、磯尾(19)、笛木(19)、石垣(20)、西田(20)、武藤(20)、伊藤(23)、木村(23)、吉田(23)、古川(25)、直井(28)、楠本(28)、松本(29)、親跡(34) <現役> 百合野(2年) 以上 24人

## 【内容】

### 1. 各委員会報告

- ① 総務（山川委員長）
  - ・名簿システムからダイヤゴナルキットにエントリーできるようになった。
- ② OB小屋（榎本委員長）
  - ・現役の応援も得て委員会で雪下ろしを実施した。地震による小屋への影響はない。
- ③ 編集（石垣委員長）
  - ・59号発行予定につき報告があった。3/13 原稿締切、4/12 発行。
- ④ OB山行（山口委員長）
  - ・42回北高尾山稜（1/31）、43回小野子山（5/23）の説明があった。
- ⑤ ホームページ（吉村委員長）
  - ・委員会を開催し、リンクの改善やノウハウの継承を討議した。
- ⑥ 部史編纂（嘉納委員、笛木委員）
  - ・文書を鮮明にする画像処理ソフト購入済みで編纂作業継続。部室内の不要文書などは廃棄を進める。
- ⑦ 会計（吉野幹事）：
  - ・口座管理、銀行対応のため、総会決議の通り会則の住所を松本会計幹事の住所に変更した。
- ⑧ 現役からの報告（57期 百合野さん）：
  - ・冬山は原則やらないので当面は小屋活動を実施する。4月以降、新人勧誘を積極的に行う。
  - ・OB会からの装備支援予算 92千円を活用中。
  - ・活動記録のため、ワンダリング記録は、ワンダリング番号、活動区分、日程、参加者、地域を残すことを確認。

### 2. 新OB会員承認

10期の北島綾子さん、15期の川端一司さんの入会承認。

### 3. その他討議事項

- ① 30～40期以降の少人数期との連絡が取りづらくなっており、期数で総会の定足数を決めている現状のルールでは総会自体が成立しないケースも想定される。  
60周年を機に現状の定足数ルールの見直し含め検討する。
- ② 期別幹事については各期の意見も取り入れながら、まず期別幹事のリストを再整備する。役割などにつき次回役員会にて総務で素案を作り、討議する。
- ③ OB会報の削減については当面は棚上げとし、将来的に財源や会員の電子化志向も考慮しながらも今後検討する。

### 4. 次回役員会予定： 日時）2015年4月25日（土）13:30～17:00

場所）てくのかわさき（JR武蔵溝ノ口駅より徒歩5分）理美容室

以上

## ■ 第42回 OB山行（北高尾山稜・景信山）報告

OB山行副委員長 小野恵美子（34期）

〔日 程〕2015年1月31日（土）

〔参加者〕嘉納(1)、吉野(2)、郡司(4)、谷上(4)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、小口(14)、狩野(14)、吉田(14)、牛窪(15)、小泉(15)、萩生田(15)、小浜(17)、渡邊(17)、山口(18)、磯尾(19)、西田(20)、武藤(20)、白木夫妻(21)、親跡(34)、小野(34) 計24名

〔コース〕八王子城跡バス停一本丸頂上一富士見台一狐塚峠一小下沢登山口一景信山一小仏峠一小原バス停

前日は東京でも雪が舞った1月末の冬晴れの朝、高尾駅前のバス停に、ご参加の皆さんが長い列を作りました。八王子城跡まで15分程バスに乗ると、日陰にはかなり雪が積もっていました。タクシーで追いかけてきた萩生田さんがジーパン姿で颯爽と合流し、24名で恒例の開会式。牛窪さんと磯尾さんが初参加です。数年ぶりのご参加の方、役員会や小屋活動でもご活躍の方、皆笑顔で、賑やかに歩き始めました。

八王子城は1585年頃に築城された山城で、城主は北条氏照。城のあった山頂に、かつて牛頭天王と8人の王子が現れたとの縁から八王子権現が祀られていたため、八王子城と名付けられたとか。現在の市名もこれに由来するのです。城跡ではありながら日本百名城の一つに数えられており、歴史好き、城好きな方はとても楽しめるコースです。歴史に疎い私も、400年以上前に同じようにここを歩いたであろう人々に思いを馳せました。

本丸跡ではかつての城を想像し、眼下に広がる多摩から都心に続く街並みとの対比に、また感慨も深くなるのでした。新宿のビル街もスカイツリーも筑波山の双耳峰も見えました。それからはアップダウンの連続。途中の富士見台では片側に雲をまとった雄大な富士を眺めて小休止。一旦下りきったところが小下沢登山口で、一面の雪野原の端の丸太に、横一列に並んで昼食をとりました。ここで白木さんご夫妻が下山することに。揃って東京マラソンにエントリーしているとのことで大事をとって。



八王子城跡本丸跡にて



小下沢キャンプ場にて昼食

気合いを入れなおして景信山の登りに取り付きました。茶屋の前にたくさんのテーブルとベンチが並ぶ山頂は、時期によってはかなりの賑わいになるのでしょうか。私たちはゆったりと大展望を満喫。眼前に富士山、丹沢、遥かに相模湾、東京湾も輝いていました。

再び気合いを入れて、下山へ。雪が融けてチョコレートフォンデュのようになった山道を、慎重かつ大胆に下って行きました。小仏峠からは、小泉さん、西田さん、武藤さんが高尾方面に下山されました。残るメンバーは小原まで下り、小原宿の資料館と本陣を見学。小原本陣は江戸時代の大名が宿泊した建物とのことで、ここでも歴史に触れることができました。小原バス停から高尾方面のバスに乗り、それぞれの帰路に。

見所が多く、大人の遠足といった趣の充実した一日でした。低山ながらアップダウンの多いロングコースで、かなり歩き甲斐がありました。皆様お疲れ様でした。

（残り2枚の写真はP6をご覧ください）

## ■ 第43回 OB山行（小野子山）案内

OB山行委員長 山口貢三（18期）

渋川から草津方面に向かう吾妻線沿いにある小野子山に登ります。120 万年前の火山であり、火口壁が浸食された結果、十二ヶ岳、中岳、小野子山の3山を形成していて、山脈を形成せず孤立した山となっているために、浅間山、白根山、上信越国境の山々の大展望台として人気の山です。

十二ヶ岳から中岳、小野子山までの縦走は急斜面の繰り返しで歩きごたえがありますが、小野子山周辺のツジの花を楽しむために頑張りましょう。帰りは駅そばの日帰り温泉で疲れを癒します。

今回はマイカーをフルに活用して始点、終点の駐車場にマイカーをデポしますので、歩行距離は少なめに抑えています。そのためにマイカーの提供にご協力をお願いします。

初参加の方、お久しぶりの方、大歓迎！多くの方の参加をお待ちしています。

〔日 程〕 2015年5月23日（土）

〔行 先〕 小野子山（おのこやま 1208m）

〔地 図〕 昭文社 山と高原地図 20 赤城・皇海・筑波

〔集 合〕 各地から車に分乗し小野上温泉駅に 10:00 集合の予定です。

〔行 程〕 小野上温泉駅→車→十二ヶ岳登山口P→1:00→十二ヶ岳→1:15→小野子山

→0:40→雨乞山→1:15→雨乞山登山口P→車→小野上温泉駅

歩行距離 7.1km 累積登高差 登り770m下り910m

（歩行時間4時間10分） 体★★ 技・危★

〔立ち寄り湯〕 小野上（おのがみ）温泉さちの湯（駅から徒歩2分）410円

〔参加費〕 500円

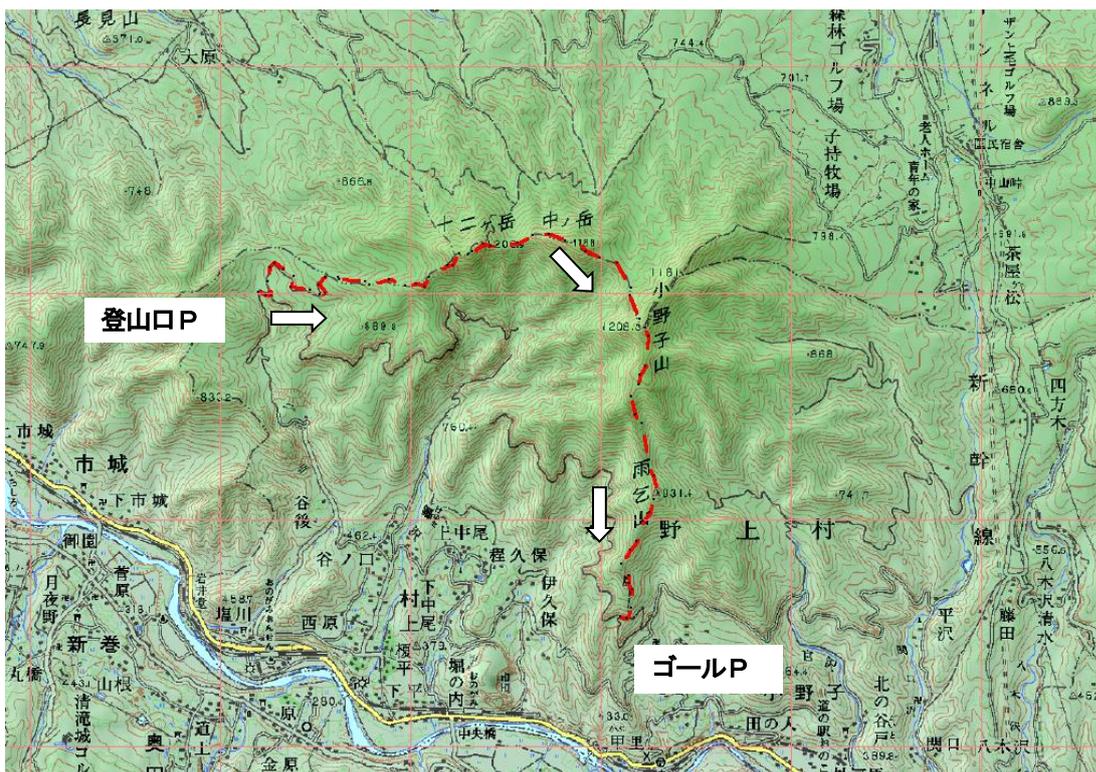
〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、洗面具

〔申込み〕 参加ご希望の方は5月10日までに下記のいずれかにご連絡ください。

小浜一好（17期） 山口貢三（18期） 小野恵美子（34期）

メール：sanko-ywvob@ywvob.com

偵察の結果次第では計画の一部を変更することもありますので、参加申し込みの方にはメールでお伝えするほかにメルマガ5月号でもお伝えします。



## ■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 榎本吉夫（12期）



2月21日の雪下ろし到着時の山小屋

今年の降雪は、2005年（平成17年）、2006年（平成18年）以来の早い降りで、12月段階で笹ヶ峰の積雪は3mを超えて4mに迫る勢いでした。この事態に年末年始は、現役各位&OB各位に3回の緊急雪下ろしを実施していただきありがとうございました。年末年始に小屋入りした方々は、現役は56期中山さん、畑さん、57期百合野さん、58期眞壁さん、高橋さんです。OBは53期三國さん、54期谷口さん、齋藤さん、14期小口さん、30期笹倉さん&櫻井さん（43期相当）、39期後藤さん一家（計3名）です。

今シーズンも、年末年始の現役・OBの雪下ろしも含めて、12月末から2月に計6回実施（3月16日現在）いたしました。OB各位&現役の皆さんのご協力ありがとうございました。

1月16日（金）～18日（日）のセンター試験休みに現役中心でスキー合宿&第1回雪下ろしその1、1月24日（土）25日（日）にその2を実施いたしました。参加いただいた方々は次の通りです。特に現役の皆さんが多数小屋入りし、心強い限りでした。

1月16日（金）～18日（日）に、現役56期古矢さん、畑さん、58期大西さん、數井さん、坂田さん、福山さん、五月女さん、尾崎さん、眞壁さんの9人、1月24日（土）25日（日）に現役古矢さん、聖マリアンヌ大井さんと越後貫さんの3人、1月24日（土）に34期村山さん、1月24日（土）25日（日）に14期小口さん、46期肥塚（三井）さん。



10時からのストーブ作戦で14時に落雪

第2回雪下ろし（実際は6回目）を、2月21日（土）22日（日）に実施しました。参加者は、小口さん、18期山口さん、後藤さん&龍之介くん、肥塚さん&梨緒さん、46期佐久間さん、48期相当加藤さん、現役中山さん、百合野さん、福山さん、大西さん、榎本の総勢13名と久しぶりの多数の参加でしたが、2005年末～2006年以來の大雪で苦戦しました。現役の百合野さん、福山さんと榎本が五八木荘で休憩後、8時半頃 Gondola 乗車、50～60cm、ラッセルにちょっと苦労しましたが、9時半前に小屋へ到着、久しぶりの軒より高い積雪にまずは入口の掘り出しに着手、小屋入り後はまずは石油ストーブに給油して、屋根雪落雪のためのストーブ作戦



造林小屋の雪下ろし中山さん、山口さん、百合野さん



除雪終了！が周りは雪の山！



梨緒さんと龍之介くん

をスタートしました。その後、山口さん、小口さん、後藤さん、肥塚さん一行と順次到着、10名以上の戦力を得て、なんとか軒の縁切りを21日夕方までに、22日午前中に柱掘り、造林小屋雪下ろしを、充分ではありませんが終えました。皆さん、ありがとうございました。

その後の、笹ヶ峰降雪情報（3月16日現在）では、今のところ累積1.5mで、このまま春を迎えてほしいと願っていますが・・・。

### <今後の予定>

- ・3月 春の小屋行事&雪下ろし  
21日(土)、22日(日)
- ・5月連休 公式行事は無く、  
個別利用(プレ小屋開け)
- ・6月 山菜採り  
6日(土)、7日(日)
- ・7月 小屋整備(草刈り)&小屋  
行事(散策or山行)  
18日(土)~20日(月)
- ・8月 夏の小屋行事&小屋整備、  
お盆週間  
8日(土)~16日(日)  
に分散実施
- ・10月 秋の小屋行事(きのこ狩り、  
山行他)  
10日(土)~12日(月)
- ・11月 小屋締め  
7日(土)、8日(日)  
(2015年3月16日榎本記)



豪華すき焼きを味わう、  
山口さん、小口さん、中山さん



後藤さん&肥塚さん親子



雪洞?遊ぶ梨渚さんと龍之介くん親子



下山する肥塚さん一行

## ■ 第42回 OB山行(北高尾山稜・景信山)報告の続き

(P3の続き)



小下沢キャンプ場にて



景信山山頂より

稜線から大きく下って、広々とした小下沢キャンプ場で昼食をとりました。雪は解けていて寒くはありません。昼食後全員で写真を撮りました。膝の痛くなった白木さん(21)は、来るべきフルマラソンに備え、夫人とともにここから下山しました。

苦しい登り返しをこなして13時30分、やっと景信山に着きました。雲がかなりかかっていたましたが、富士山は暖かく我々を迎えてくれました。

## YWV 歴史資料館の使用法

部史編纂委員会編

資料館の使用法を紹介します。詳しい使用マニュアルは「利用案内」の中にあります。

### 歴史資料館への入り口について

OB会ホームページから入ります。  
このウィンドウが現れます。



利用案内

YWV OB 会員ログイン



左欄の一番上の YWV OB 会員ログイン が会員専用書庫への入口です。以下、

- ・ YWV 歴史概略メニュー  
(総括文書を中心に部員数推移、歴史年表等)
- ・ 公式ワンダリング全記録一覧表
- ・ 機関誌「スカイライン」全集
- ・ OB 会活動各種のメニュー
- ・ 歴史資料館 (部員証、ユニフォーム等)
- ・ 映像館 (各年代毎の写真が見られます)

があります。

このウィンドウは OB 会員以外の外部の人にも公開されているものです。すでに検索などで多くの人に利用されています。OB 会員の方は是非ログインして下さい。

左上の「YWV OB 会員ログイン」をクリックします。

すると、会員登録・認証 (ログイン) のページになります。

パスワードのない会員は以下記入して会員登録して下さい。

期  
姓は現役時の姓で。  
姓(漢字) 名(漢字)

送信

初回は会員登録(左図)として、期と氏名を入力して、送信を押して下さい。OB 会名簿にある貴方のメールにパスワードが送られます。

このパスワードを記憶して、登録の下にある会員ログイン(右図)から入館して下さい。

パスワードを持つ会員は以下ログインして下さい。

会員ログイン  
期  
パスワード

姓は現役時の姓で。  
姓(漢字) 名(漢字)

送信

## 会員専用書庫について

書庫には、公開ページにない、文書庫、現役時代名簿があり、公式W表には参加者名が追加され、映像館は収蔵数が多く説明文も詳しいです。また、名簿や公式Wの検索もできます。さらに、お手持ちの公式W時の写真を映像館に登録したり、説明文に追加することもできます。

公式ワンダリングデータの表示  
 公式ワンダリングデータ全部閲覧 [表示](#)  
 AND検索(年、年度、月、行事コース、参加者)

西暦年	<input type="text"/>	行事	<input type="text"/>
西暦年度	<input type="text"/>	コース、場所	<input type="text"/>
月	<input type="text"/>	参加者	<input type="text"/>
<input type="button" value="検索"/>			

現役名簿データベースの表示と編集  
 名簿全部表示 [表示](#)  
 名簿の期別表示 表示する期

名簿AND検索 (期、姓名、役、性別、故人)

姓	<input type="text"/>	期	<input type="text"/>
名	<input type="text"/>	役	<input type="text"/>
性	<input type="text"/>	故人	<input type="text"/>
<input type="button" value="検索"/>			

## 文書庫

部室に残る各期の膨大な文書記録をデジタル化しています。

公式山行の要項、報告など文書

▼1957年	▼1958年	▼1959年	▼1960年	▼1961年	▼1962年	▼1963年	▼1964年
▼1965年	▼1966年	▼1967年	▼1968年	▼1969年	▼1970年	▼1971年	▼1972年
▼1973年	▼1974年	▼1975年	▼1976年	▼1977年	▼1978年	▼1979年	▼1980年
▼1981年	▼1982年	▼1983年	▼1984年	▼1985年	▼1986年	▼1987年	▼1988年
▼1989年	▼1990年	▼1991年	▼1992年	▼1993年	▼1994年	▼1995年	▼1996年
▼1997年	▼1998年	▼1999年	▼2000年	▼2001年	▼2002年	▼2003年	▼2004年

▼1966年

1966年\_398\_夏合宿全体要項

各種合宿の要項、報告、総括、山小屋日記を活字に起こしたもの、スカイライン復刻、遭難事故の報告書、山の雑記帳、山の音など、かなりの収蔵がありますが、今後も逐次補充して行きます。

## 写真の登録

YWV公式Wの写真をjpgとして保有している方は映像館に登録することができます。

YWV歴史資料館管理室 公式ワンダリング写真のアップロード

公式W No.94 には、既に、次の写真があります。

既登録写真ファイル名の編集 (最初の数字部分は変更しないで下さい。下線記号"\_"は使わないで下さい。改行は<br>です。)

94\_19810129\_冬季W(三ツ峠).jpg

94\_19810129\_冬季W(三ツ峠)コース地図.jpg

写真の新規登録

貴方のPCからアップロードする写真ファイル:

登録するファイル名を既登録のものと同じにならないよう編集して下さい。

94\_198101\_冬季W(三ツ峠).jpg

## ■ 2014年シニアOB月例会報告

シニアOB月例会委員長 早坂 宗 (8期)

2014年のシニアOB月例会は、雨天中止が1回ありましたが、年8回の開催のうち4回は快晴で、概ね好天に恵まれた1年でした。また、貸切バス利用も4回で、これも例年並みでしたが、4月からバス代が大幅値上げとなり、併せて高速道路代もETC割引がなくなったため、貸切バスは大幅コストアップとなりました。

皆勤賞受賞者は13名でした。前年の19名に比べて大きく減少しましたが、これは判定基準が厳しくなったためです。企画賞は、展望と花に恵まれた、9月八子ヶ峰(8期田中リーダー)に決まりました。田中リーダーは昨年に続き連続2回、通算4回目の企画賞受賞です。

2014年の参加者は301人、平均37.6人 通算参加者は5,244人、平均34.1人です。

### 【第157回 堂平山】…1月22日(水) 快晴、 33人

- ・2ヶ月ぶりのシニア月例会は奥武蔵の笠山、堂平山、風はちょっと冷たかったですが、快晴で、日差しは暖かく、気持ちの良い木漏れ日登山でした。
- ・集合地の小川町駅前で、2013年の皆勤賞と企画賞の表彰を行いました。
- ・天気が良すぎて遠くは霞んでしまい、遠望はききませんでした。
- ・堂平山からはアイゼンを付け、程よく凍った雪を踏みしめ、快適な下山でした。

### 【第158回 三方分山】…3月18日(火) くもり、 33人、 貸切バス

- ・朝は快晴で、車中から眺める富士山も、真っ白な姿を間近に見せていましたが、出発するころは一天俄かにかき曇り、風も出てきました。
- ・風が強く、雪もかなり残っていて歩きにくく、お目当ての展望もないため、コースを短縮して三方分山を断念し、精進峠から下山しました。
- ・パノラマ台では、先月逝去した7期小林秀臣氏へ黙祷を捧げ、分骨を納めて、全員でみはるかす以下3曲を歌い、7期物故者5名へ哀悼の意を表しました。

### 【第159回 高鈴山】…4月16日(水) 晴、 31人、 貸切バス

- ・暖かく、頬をなでるそよ風が気持ち良い、絶好の登山日和でした。
- ・登山口までのバス道路は桜が満開、登山口の御岩神社には、ミズバショウ、ショウジョウバカマ、ミツバツツジ、シャクナゲなどがたくさん咲いていました。
- ・お目当てのイワウチワは、帰路御岩山の急な斜面を下って、たっぷり鑑賞できました。さすか花の百名山です。



イワウチワ

### 【第160回 岩殿山】…5月10日(土) 快晴、 41人

- ・久しぶりに41名という多数参加で、快晴無風、絶好の登山日和でした。昼食後はAコース(25名)とBコース(16名)に分かれて下山しました。
- ・Aコースは天神山、稚児落しを越えて浅利に下りましたが、途中クサリでの岩登り、ロープでの急斜面下りなどがあり変化に富んだコースでした。
- ・富士山の眺めは最高で、ヤマツツジがいたるところに咲いていて、新緑の木々が目にまぶしい、快適な春山ハイクでした。

### 【第161回 百蔵山】…6月7日(土) 雨天中止

### 【第162回 高峰山・池の平】…7月24日(金) くもり、 39人

- ・暑さを逃れて涼しい高原へ・・・今月は浅間連峰の高峰山と池の平湿原にまいりました。さすが2000mの高原、涼しくて快適な一日でした。
- ・信州は梅雨明け未だで終日くもり空、遠望は得られませんでした。

- ・期待の夏の花々は、以前より少なく、高峰山ではヤマオダマキ、クマユリ、カラムツソウ等、池の平ではコマクサ、アヤメ、ワレモコウ等を鑑賞しました。ヤナギランはこれからというところでした。

【第163回 八子ヶ峰】・・・14年9月19日（金） 晴、 41人

- ・2ヶ月ぶりの月例会は展望のコース八子ヶ峰へまいりました。好天のもと、暑くもなく寒くもなく、快適な高原ハイクでした。
- ・蓼科山、八ヶ岳連峰が間近に見え、南から鳳凰三山、北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、中央アルプス、御嶽山、乗鞍岳、槍穂、鹿島槍ヶ岳、四阿山、浅間連峰とぐるり360度の大展望でした。
- ・ミヤマアキノキリンソウ、ヤマラッキョウ、ミヤマトリカブト、ウメバチソウ、タチフウロ、ウスユキソウ、ヤマハハコ、カワラナデシコなど、夏から秋の花がたくさん咲いていました。



蓼科

【第164回 笹子峠】・・・14年11月16日（日） 快晴、 32人

- ・今月の月例会は笹子峠越えです。空気は冷たかったですが、日差しは暖かく、快適な晩秋ハイクでした。
- ・笹子からバスで新田下へ、そこから旧甲州街道の近くを通る新田沢沿いの道を緩やかに登って、樹齢1,000年を越える矢立の杉で早目の昼食をとりました。そこから笹子峠までは、ロープもある急登です。
- ・笹子峠から甲斐大和駅までは、落葉を踏みしめての気持ちの良い下りで、全山すばらしい紅葉でした。

【第165回 三浦アルプス仙元山】・・・14年12月18日（木） 快晴、 45人

- ・今年最後の月例会は三浦アルプス仙元山です。昨日までの強風は止んで、暖かい日差しが一杯の、快適な初冬ハイクでした。
- ・仙元山山頂からは、相模湾の向こうに富士山を始め、丹沢、箱根、伊豆の山々が眺められ、またコースの後半は横須賀港から東京湾、房総半島が近くに見えてとても素晴らしい展望でした。
- ・最高峰でも250mくらいですが、ピークが10ほどあり、5時間かかる縦走です。急なアップダウンの連続で汗をかきました。
- ・出発前に月例会2014年表彰を行ないました。受賞者は企画賞1名、皆勤賞13名、100回参加賞1名、50回参加賞1名です。



2014年度企画賞受賞月例会 9月八子ヶ峰 参加41名 L田中（8期）

## ■2014年実施状況

### [月別実施状況]

回	月	コース	天候	リーダー	参加者	摘要
第157回	1. 22(水)	堂平山	快晴	3. 腰塚	33	貸切バス
第158回	3. 18(火)	パノラマ台	くもり	8. 早坂	39	
第159回	4. 16(水)	高鈴山	晴	4. 郡司	31	貸切バス
第160回	5. 10(土)	岩殿山	快晴	7. 井上	41	貸切バス
第161回	6. 7(土)	百蔵山	雨	6. 近藤	中止	
第162回	7. 24(木)	高峰山	くもり	8. 小出	39	貸切バス
第163回	9. 19(金)	八子ヶ峰	晴	8. 田中	41	貸切バス
第164回	11. 16(日)	笹子峠	快晴	8. 佐木	32	月平均 37.6
第165回	12. 18(木)	三浦アルプス	快晴	6. 岡田	45	
					301	

### [皆勤賞]

13名

期	氏名	通算回数
2期	吉野大次郎	15回目
3期	腰塚 典明	16回目
4期	郡司 直樹	9回目
6期	松本 君子	初受賞
7期	橋本 明美	5回目
7期	井上 義雄	4回目
7期	今井 忠男	初受賞

期	氏名	通算回数
8期	田中 稔	6回目
8期	早坂 宗	6回目
8期	早坂富美子	4回目
8期	溝田 隆之	4回目
8期家族	田中 富子	3回目
8期	佐木 誠夫	初受賞

### [参加回数賞]

賞	期	氏名
150回賞	3期	腰塚 典明
130回賞	2期	吉野大次郎
	4期	郡司 直樹
100回賞	7期	林 誠一
	8期	松本真理子
50回賞	5期	諸角 絢子
30回賞	8期家族	田中 富子
	8期家族	綾部 広一
	8期	平沼 茂

## ■通算実施状況 (1999~2014年)

### [参加者数]

年	実施回数	参加者	1回当たり
	回	人	人
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
04年	10	332	33.2
05年	11	367	33.4
06年	12	397	33.1
07年	11	345	31.4
08年	9	326	36.2
09年	9	367	40.8
10年	9	350	38.9
11年	8	291	36.4
12年	8	325	40.6
13年	8	307	38.4
14年	8	301	37.6
計	154	5,244	34.1

### [企画賞]

年	月	コース	リーダー
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林
03年	5月	榛名山	2期塚原
04年	03. 12月	仏果山	8期田中
04年	1月	宝登山	1期嘉納
05年	9月	箱根・仙石原	4期谷上
06年	1月	入笠山	7期小林
06年	11月	赤城・地藏岳	8期田中
07年	10月	物見山	3期腰塚
08年	10月	茶臼山	7期服部
09年	6月	荒山・鍋割山	2期吉野
09年	11月	伊豆・踊子歩道	4期郡司
10年	2月	縞枯山	7期小林
11年	7月	黒斑山	6期岡田
12年	11月	大菩薩嶺	2期吉野
13年	7月	烏帽子岳	8期田中
14年	9月	八子ヶ峰	8期田中

### [参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	リーダー	参加者
1	曾我丘陵	12年1月	4期郡司	57人
2	湯坂路	09年12月	7期小林	56
3	高麗山	11年1月	7期小林	53
4	A. 鎌倉天園 B. 寺社巡り	06年1月	7期小林	51
5	横浜・大丸山	10年1月	6期近藤	49
5	高川山	08年12月	6期近藤	49
5	横浜市民の森	13年1月	8期早坂	49
8	伊豆・踊子歩道	09年11月	4期郡司	48
8	霧ヶ峰	10年7月	2期吉野	48
10	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期江崎	47
10	荒山・鍋割山	09年6月	2期吉野	47
10	三義山	13年3月	4期郡司	47

### [皆勤賞受賞回数ベストテン]

順位	氏名	回数
1	3. 腰塚 典明	16回
2	2. 吉野大次郎	15
3	4. 郡司 直樹	9
4	3. 塩谷佐紀子	8
4	7. 古宮智津子	8
6	2. 北見美智子	7
6	3. 白井 信行	7
8	3. 吉村 元孝	6
8	8. 田中 稔	6
8	8. 早坂 宗	6
11	6. 岡田 光豊	5
11	7. 林 誠一	5
11	7. 橋本 明美	5

OB会ホームページには活動報告、投稿やデータなど沢山のコンテンツが収録されています。今回は2015年2月18日ホームページに掲載された、遠くカメルーンからの安藤(11)さんの紀行文をご紹介します。

### カメルーンからの便り

安藤貞利（11期）

カメルーンは、西アフリカで最高峰のカメルーン山（4095m）があります。ここで2月14日（土）に、“希望のマラソン”がありました。標高700mのブエアの町から、頂上を往復するマラソンです。



カメルーン山 山裾で撮ったので全体の山容がでない



大会で表彰後、トロフィと賞金をもらった女子

42.195kmのマラソンではなく、山岳マラソン。しかし4000mを超す山頂では、高山病も心配されますが、1位の賞金が60万円という日本では考えられない賞金で頑張るようです。400人位の参加者で半分ぐらいが途中の第2ハット、第3ハットでの足きりに会いゴールできないようです。他に、若者とベテランのコースがあって、私は年齢でベテランに入りましたが、若者コースを行ってきました。ベテランは、1000m地点まで、若者は1800mにある第1ハットまで。標高1000mまではゆっくり走って、その後は早足で歩きました。だいたいハーフマラソンの距離で、4時間半。途中、水のサポートはあったもののバナナなどの食べ物はなく、すっかりエネルギー切れでゴールしました。しかし、なんとゴール近くで、頂上からのトップランナー（カメルーン人）に抜かれました。トップランナーは、細身で足はまるでチータのように細く、バネのよう。



日本人は、3人。  
協力隊の若者。  
右のJリーグのシャツを着た彼が、頂上往復で、9時間。真中の彼は第1ハット往復で3時間半。  
3人ともゴール。

カメルーン山は、アフリカ東部にある大地溝帯にできたキリマンジャロ、ケニア山からウガンダ、エチオピアにある山とは大陸を挟んで反対側にあり、カメルーンから赤道ギニアの首都のあるピオコ島と南に続く火山列にある山です。アフリカ西部の山脈は、アフリカ大陸と南アメリカ大陸が分裂した時に、マグマが噴出した火山帯で、ハワイ諸島と同じような粘度の低い流れやすい溶岩でできています。また、この火山帯の北にある噴火湖のニオス湖では、1986年二酸化炭素噴出が起きて1,800人近くが死亡した事故も起きています。



カメルーン山は 2000m 位で常に雲に隠れている



大会貴賓席青年スポーツ大臣  
協賛企業代表がそろっている



協賛企業は、ギネス（ビールメーカー）、SHINILI（中国のバイクメーカーで、現地生産している）、ケニア航空、HARP（飲料水メーカー）で、賞金やランナーへのTシャツなど出しています。ランナーは、全体で500人ぐらいで、会場や道路での観戦者が数千人と多い。海外からの参加者は、米国、フランス、カナダ、ベルギー、ケニア、それに日本を含めて30人ぐらいで、ほとんどがカメルーン在住者。それでも参加ランナーの国旗が前日の開会式に登場して、日の丸が出てきたのでびっくり。

ブエアの町のカメルーン人は、このマラソンを一大行事としてみんな応援していました。アジア系の私は、沿道からアジアン、ニイハオ、ヒホー、ジャボネといろいろ声をかけられて、その度に手を挙げながら出来るだけ元気に走りました。そしてゴールした時に、地元のテレビ局がカメラを回していて、私の姿がテレビニュースに映ったようで、知り合いからテレビで見たよと言われて、エーエーとなってしまいました。きっと疲れてゴールした姿が映っていたのでしょう。

## 自由投稿「故、鴨志田岳志君の追悼企画の報告」

津江真行（22期）、寺島一希（22期）

昨年1月に逝去した22期の鴨志田岳志君の追悼文は、その3ヶ月後の4月発行のOB会報No.56号にて掲載させて頂いたところです。あれからちょうど1年が経ち、今年の1月には同期有志で追悼企画を行いましたので、このOB会報の場を借りて報告をさせて頂きたいと思います。

追悼企画に際しては奥様の周子さん（24期）とも相談しまして、ここは「ただ皆で集まったの追悼会（飲み会）だけでは面白くない」、「やはり鴨志田らしい企画、そうだ山行にしよう」となりました。そして昨年12月には皆に下記のような案内状を送付しました。

### 【故、鴨志田岳志君の追悼企画のお知らせ】

早いもので鴨志田君が逝去されて1年が経とうとしております。

ご存知のとおり、故人は病気療養中でも機会をみて丹沢に足を運んでは、山の風景の中に身を置いていました。そんな故人を偲びつつ、鴨志田周子さんもお誘いして、下記のとおり追悼の企画を行いたいと思いますので、ご都合のつく方はご参加ください。（注記：主に22期～24期を中心に声掛けしております）

22期有志（浅沼、津江、寺島）

### <追悼企画（その①）【丹沢バカ尾根での追悼登山】>

- 日付：平成27年1月11日（日）  
行き先：丹沢大倉尾根（通称「バカ尾根」）往復（出来れば「塔ノ岳」に登頂）  
集合場所：大倉バス停8時45分頃【小田急渋沢駅8時20分発の大倉行バスに乗車すること】  
行程案：大倉発（9時）⇒小草平（11時）⇒塔ノ岳着（12時30分着：昼食）  
⇒同発（13時15分）⇒大倉着（15時30分）【実働約6時間／高低差1200m】  
持ち物：登山できる服装（装備）、弁当、飲み物、雨具、防寒具、その他必要なもの  
注意事項：①丹沢とはいえ厳冬期です。降雪の可能性もあり、無理せず引き返します。  
②厳冬期の登山に相応しい装備を各自で用意してください。  
③天候不順の際には中止にします。事前に連絡先等を確認しましょう。  
④久しぶりの登山になる方は、トレーニングなど充分にお願いします。

### <追悼企画（その②）【追悼会（＝飲み会）】>

- 日時：平成27年1月11日（日）18時ごろ開始  
場所：小田急線、相鉄線「海老名駅」周辺の飲食店【未定：決まり次第連絡します】  
⇒追悼登山（企画その①）を終えた方は、渋沢から海老名に移動して集合。  
⇒追悼会（企画その②）だけに出席する方は各自で現地集合。  
注意事項：飲み過ぎには注意しましょう。 以上

この声掛けに応じてくれたのは総勢13名（その①参加は9名、その②のみ参加は4名）でして、新年早々の連休の中にも係わらず多くの方に参加して頂き、また天候にも恵まれ（山頂付近にも降雪もなく）無事に行うことが出来ました。

その4日後の1月15日の晩には、何事にもマメ(?)な津江から、参加者全員へのお礼と、参加出来なかった同期への報告も兼ねて下記のような報告メールが送信されました。皆さんご存知の津江の人柄を感じさせる人情味ある文章ですので、原文のままここに掲載させて頂き、まずはこの企画の報告とさせて頂きたいと思います。（括弧内の斜字体のみ今回追記）

Subject: 1月11日第1回鴨志田岳志記念登山&飲み会【断片的な報告&写真】

From: 津江 / To: 24期の鴨志田周子さん&文ちゃん/22期の皆さん/23期木村真行さん/24期上野隆行さん

1月11日(日)の第1回鴨志田記念登山&飲み会の断片的な報告と写真を添付します。

おそらく、寺島がきっちりした詳細報告を送ってくれると思いますが、津江スマホ写真と断片的な報告です。

前日の昼ごろ、富山の高岡にいる立浪から「雪が大丈夫だったら、明日、最初だけ参加する」との電話があり、当日には相鉄の横浜駅で待ち合わせて、二人で渋沢駅に向かいました。(参加メンバーには誰にも教えず)

下車した渋沢駅がとても大きくなっていてびっくりで、バス乗り場で待っていた浅沼、寺島夫妻、鴨志田親子と合流しましたが、立浪の登場には、皆、びっくりです。大倉のバス停付近も、30数年振りに来てみると大変きれいになっており、車で来ていた谷内、上野と一緒に、二人も立浪にびっくりでした。

立浪は、皆と一緒に大倉高原山の家まで約45分歩き、そこで皆と写真を撮って帰りました。(写真①)その後、立浪は、同期の山崎と横浜駅周辺で食事をして富山に帰りました。飛行機が途中で引き返す可能性があったようです。とにかく、立浪、サプライズ参加ありがとう!



写真② 錫杯で乾杯

まず、バカ尾根はバカに出来ない登りでした。大した荷物も背負っていないのに、還暦近い体には結構きつかったのですが、相模湾や横浜の街が遠くに見え、景色は最高でした。

塔ノ岳直前の花立山荘で、寺島夫人が無理せず待機することになりましたが、実は、津江も右ひざが心配だったので、一緒に残ってもいいと思っていたのに、立浪から錫杯を託され「頂上で献杯してくれ」とミッションを受けていたので、頂上まで行ってしまいました。頂上の直前では、何と上野が、「寺さん、浅沼さん、先に行ってください。後から行きます」とバテカ

けていたことを後で聞き、第2部で酒の肴になっていました。頂上で文ちゃんが立浪から託された錫杯で飲んでいる写真です。(もっと良く撮れているものに差し替え。写真②)(山頂にて写真③)

頂上は気温4℃前後位でしたが、風が強くて寒く、すぐに下りて、寺島夫人の待つ花立山荘付近の中腹でお湯を沸かして、立浪のお土産寿司(うまかった)とカップヌードル(一部チキンラーメン)で、ワイワイガヤガヤの昼食でした。寺島の最新鋭のガスが強力で、津江の30年前のガスはなかなか沸騰しないので、寺島が自慢しながらお湯を沸かしていました。

下りでは、やはり皆、余裕が出来て、色々な話をしながら降りましたが、実は津江が一番不安だったのです。しかし谷内がストックを1本貸してくれたので、右ひざも問題なかったです。

(津江がツエついて下りました:笑)



写真① 大倉高原山の家



写真③ 塔ノ岳山頂

なお翌日は、30年前に同期の故中丸の独身寮から落ちて骨折した左足かかとの古傷が痛みましたが、つき合いの長い古傷で、夕刻には治っていました。

大倉から渋沢までは上野（上野は山行のみ）と谷内の愛車で送ってもらい、18時ごろから海老名駅近くのお店で、23期木村真行、あっこさん、成田、山崎と一緒に、飲み放題で3時間ちょっとワイワイガヤガヤで一番うるさい客だったかもしれないです。お店の迷路のようなトイレから戻る時、隔離されたような部屋から谷内の笑い声が指標となって、皆、無事に戻っていました。

寺のウイスキーのピッチがヒートアップし、山田との掛け合いが、夫婦漫才となったため、皆でいじって楽しんでいました。雰囲気は苗小舎の夜みたいでした。とにかくよく笑った夜です。でも、何の話をしたのか、あまり覚えていません。（これが企画その②の実態です）

（お店を出た時の）皆の集合写真は、寺が撮っているので、後で送付してくれると思いますが、一生懸命タイマーをセットしようとする寺がおかしくて、津江スマホで撮りました（くだらないので写真掲載略）。結局、成人式帰りの心優しいヤンキー集団が撮ってくれ、一緒に写真も撮っちゃいました。海老名の駅前の街が、昔と比べてとんでもなく大きくなっているのが、立浪登場の次のサプライズでした。

ま、とにかく、そんなこんな長い1日でしたが、鴨が発病後に103回登山し、そのうち半分以上が丹沢で、27回登った塔ノ岳にみんなで登って、下りて、酒飲んで、昔のように大笑い出来た一日でした（その詳細は寺から報告があると思います）。うるさくて元気なおじさん、おばさん達に終日付き合ってくれた文ちゃんに、周子からお礼を言っておいてください。

大倉（バカ）尾根は少しハードですが、その時の体力に合わせて引き返すことも出来るし、僕らワングルの原点なので、また、今後も時々集まってチャレンジしたいと思います。女子会もやるような話も出ていました。

鴨を思い出して、そして今を楽しんで、大笑いすることはとっても健康に良かったです。こんな機会をくれた鴨に、有難うと伝えたいと思います。

津江

---

以上が津江からの報告でして、今回の企画の大方の様子が伺えるのではないかと思います。

ひとつだけ寺島から補足させてください。津江の報告の中にある下線部のことです。

実は、この企画の約3ヶ月前ですが、生前、鴨志田と交信していたメールを読み返しては、闘病生活の中でも山を忘れることなく、治療の合間を見ては山に行っていた彼のことが思い出され、奥さんの周子さんに連絡を取って、「1回目の手術後、亡くなるまでの6年間の彼の山行実績を教えてください」と相談したところ、快く引き受けてくれました。彼の残していた山行手帳や写真の記録などを拝見しつつ、当時、自分が受け取ったメール文章と照らし合わせてみては、その時の彼の心境などに想いを馳せたりしていました。周子さんも仕事で忙しいながらも協力してくれ、「こうして調べてみることも楽しい」「こんなに山に行っていたのかと思うと、改めて感心する」とも言ってくれました。

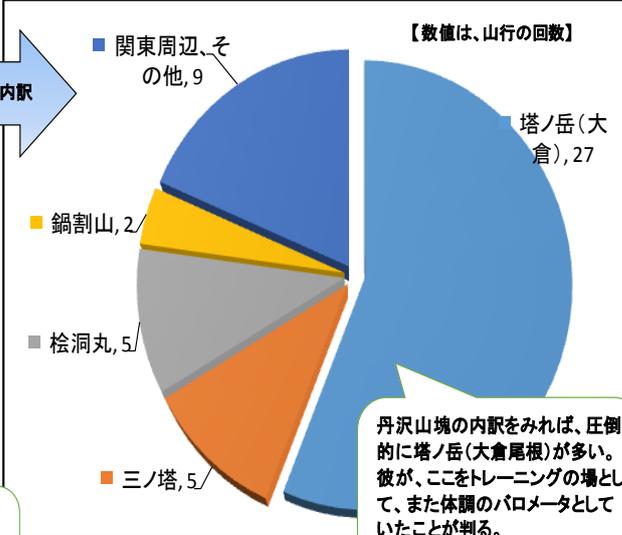
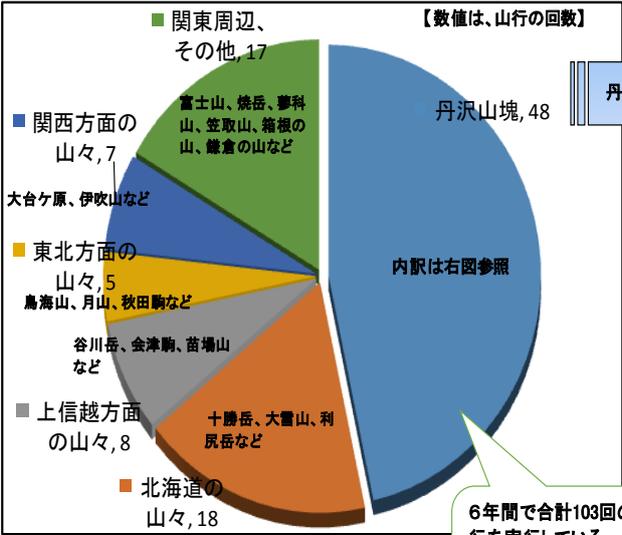
その登った山の名前や、年間の山行回数などを集計しつつ、彼が仕事や治療との兼ね合いをみながら、いつ頃に何処へ行っていたのかなど調べてみようと思って、エクセルのグラフにしてみたのが別紙です。詳しくはそちらを参照して頂きたいのですが、その実績たるや、改めて見ては感嘆です。通算103回、最多では年間29回も山に行っている。そして何よりも丹沢バカ尾根に6年間に27回も登っているのです。生前、彼が「治療中に衰えた体力を回復するトレーニングの場としても、また体調のパロメーターとしてバカ尾根はちょうど良い」と言っていたことが思い出されます。

そういえば、我々同期が鴨志田と一緒に行った最初の山行は「新人練成1次合宿」でして、それはまさにこのバカ尾根です。そうだ、「この鴨志田の追悼企画にはこの尾根を登るしかない」との我々有志の声に周子さんも快く賛同してくれて、更には娘の文ちゃんも一緒に行くと言ってくれました。ありがたい限りです。

追悼企画の報告は（前述の）津江のメールのとおりですが、「企画その②：飲み会」の場ではこの山行記録を皆に配布して、周子さんからも幾つか当時の状況などを説明して貰ったことだけは、ここに追記させていただきます。

こうしてこの記録を見ると、人と自然をこよなく愛し、そして何よりも家族を大切にされた鴨志田が、我々に向けて残してくれた幾つものメッセージが含まれているのではないかと思います。改めて鴨志田に感謝です。

鴨志田岳志君の山行記録(データ)【平成20年～25年】

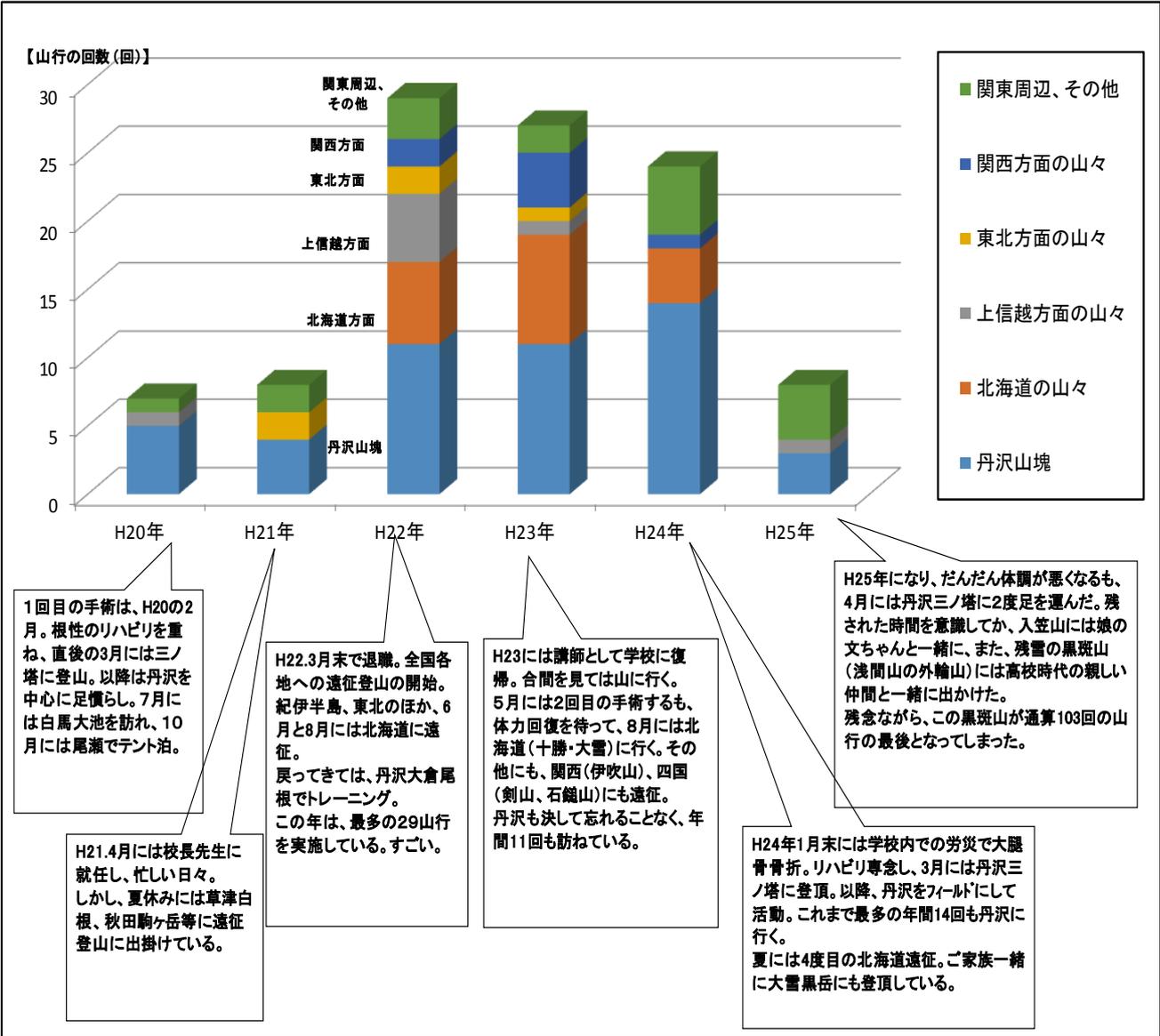


【図1】6年間での登山エリアと回数

【図2】6年間での丹沢山塊の山々とその回数

6年間で合計103回の山行を実施している。そのうち、約半数が丹沢山塊である。

丹沢山塊の内訳をみれば、圧倒的に塔ノ岳(大倉尾根)が多い。彼が、ここをトレーニングの場として、また体調のパラメータとしていたことが判る。



1回目の手術は、H20の2月。根性のリハビリを重ね、直後の3月には三ノ塔に登山。以降は丹沢を中心に足慣らし。7月には白馬大池を訪れ、10月には尾瀬でテント泊。

H21.4月には校長先生に就任し、忙しい日々。しかし、夏休みには草津白根、秋田駒ヶ岳等に遠征登山に出掛けている。

H22.3月末で退職。全国各地への遠征登山の開始。紀伊半島、東北のほか、6月と8月には北海道に遠征。戻ってきては、丹沢大倉尾根でトレーニング。この年は、最多の29山行を実施している。すごい。

H23には講師として学校に復帰。合間を見ては山に行く。5月には2回目の手術するも、体力回復を待って、8月には北海道(十勝・大雪)に行く。その他にも、関西(伊吹山)、四国(剣山、石鎚山)にも遠征。丹沢も決して忘れることなく、年間11回も訪ねている。

H24年1月末には学校内での労災で大腿骨骨折。リハビリ専念し、3月には丹沢三ノ塔に登頂。以降、丹沢をフィールドにして活動。これまで最多の年間14回も丹沢に行く。夏には4度目の北海道遠征。ご家族一緒に大雪黒岳にも登頂している。

H25年になり、だんだん体調が悪くなるも、4月には丹沢三ノ塔に2度足を運んだ。残された時間を意識してか、入笠山には娘の文ちゃんと一緒に、また、残雪の黒斑山(浅間山の外輪山)には高校時代の親しい仲間と一緒に出かけた。残念ながら、この黒斑山が通算103回の山行の最後となってしまった。

【図3】6年間の登山の軌跡 / エリアと回数の推移

## ■ 現役部員の活動紹介

主将 百合野貴志（57期）

古矢前主将から引き継ぎ、主将に就任した57期の百合野です。今後ともよろしくお願ひします。冬場はシーズンオフで登山は行わず、1月から学期末となり目立つ活動はありませんが。

### 追いコン

12月6日から7日、今年度卒業する部員はいませんが、例年通り開催しました。水無寮が使用できないとのことでしたが、古矢前主将の親戚の御宅を使わせてもらい、無事開催されました。追い出しイベントは行いませんでしたが、引き継ぎを行い、前述のとおり57期百合野が主将就任することとなりました。卒業した54期以前の先輩方もいらしてくださり、翌日予定がある人がいながらも一晩中楽しい会でした。

### スキー合宿

年末に2回と1月のセンター試験の休みに妙高杉ノ原スキー場でのスキー合宿を行いました。冬小屋どころかスキー初体験の1年生も参加しましたが、何とか小屋入りすることができました。夏場に用意しておいた薪を使い雪の中で焚火をしたり、並行して小屋の雪下ろしも行いました。輸送に協力してくださったOB、OGの方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。



スキー場にて

雪の上での焚火(肝心の火がほとんど写ってませんが)





スキーを履いて小屋入り

この他、部室の大掃除等して過ごしております。春休みは4月の新入生勧誘の準備に専念し、また58期のように沢山の新入部員が来るよう、58期を中心に頑張っています。

## ■ 編集委員会から

編集委員長 石垣秀敏 (20期)

### ～車内風景～

最近、通勤電車でザック（カバン？）を背負った人をよく見かけるようになりました。ザックと言えば山ではお馴染みですが、荷物の持ち運びが楽ですし、何よりも両手が使えるのがメリットですね。その便利さからか、若者から壮年まで多くの方がスーツ・コートの上にザックやビジネス用のカバンを背負っています。

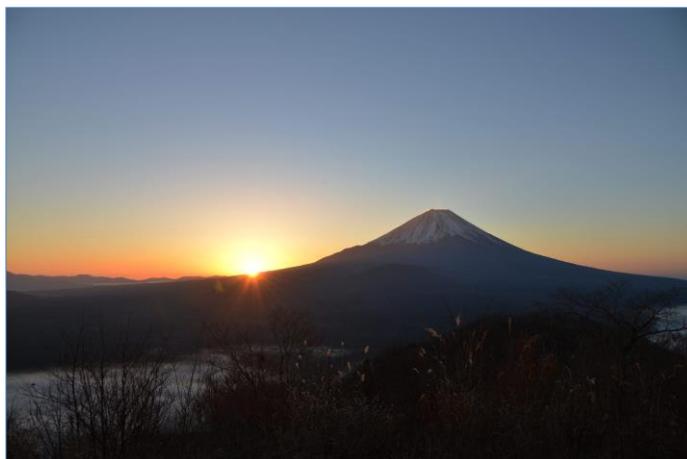
昨日も満員電車に乗って何気なしにいつもの車内風景を見ていると、突然嫌な気持ちになりました。それは電車が混んでいるにもかかわらず、ザックを背負ったまま立っている人や、背負ったまま座席に座っている人が沢山いたからです。その人たちは皆スマホや携帯電話に夢中です。両手が使えるメリットを十分に活用していますが、こんな風に思いました。「自分の世界に入り込んでいて、他の人への配慮ができない悲しい人なんだな」と。

電車の中ではザックを背中から降ろすのが当然です。他の人の迷惑になりますからね。「最近の人はマナーが・・・」などと考えながら社内のザックを見ていると、大学時代、土曜日の昼頃、相鉄線・小田急線を乗り継いで丹沢に出かけたことを思い出しました。当時は学校も会社も土曜日は半ドン（これは死語？）で、帰宅時間とも重なり、電車がとても混んでいたことを覚えています。さすがに背負ってはいませんが、大きなキスリングを持って何人も電車に乗り込む訳ですから、他の人から見たら結構迷惑だったのでしょうか。それから40年近く経って、少しは大人らしく他の人に配慮ができる人間になったかなと自問自答（正直に言うと「反省」）した次第です。

もう一言)

P17 に書かれた鴨志田岳志君の山行記録を見て、闘病中にこれ程まで山に登った彼の執念、凄さを感じました。そして、生きている喜びと、時を無駄にしないことを改めて教えてもらいました。ご冥福をお祈り申し上げます。

【訃報】 水田徹氏 (20期) が2015年3月25日に逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



三方分山近くの  
パノラマ台からの富士山  
2014.11.23 青山氏 (20) 撮影

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。自由投稿の原稿、写真、スケッチ等どしどしお寄せ下さい。

宛先： 石垣秀敏 (20期)、武藤功二 (20期)、成島和仁 (22期)  
kaiho-ywvob@ywvob.com

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

### YWVOB会 会報第59号

発行： 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB会  
発行日： 2015年4月12日  
発行責任者： 鈴木弥栄男(9)  
編集責任者： 編集委員長 石垣秀敏(20)  
編集集： 編集副委員長 武藤功二(20)、編集委員 成島和仁(22)  
印刷所： 株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1